

## 兵庫県立明石公園のフジバカマの観察と保護活動

高野 哲司\*

Satoshi TAKANO : Observation and Conservation of *Eupatorium japonicum* Thunb. ex Murray in the Hyogo Prefectural Akashi park

### はじめに

フジバカマ *Eupatorium japonicum* Thunb. ex Murray は、キク科ヒヨドリバナ属に分類される多年生草本である。秋の七草の1つで、かつては河原や二次草原などに普通に見られた草本であった。現在、環境省レッドデータブック（環境省 2000）では絶滅危惧種Ⅱ類（VU）に、「兵庫県版レッドデータブック 2010」（兵庫県 2010）ではBランク（環境省の絶滅危惧Ⅱ類に相当）に指定されるまでに個体数が激減している。

兵庫県立明石公園は、明石城跡を利用してつくられた公園であり、石垣周辺の草地や林縁にフジバカマ（図1、図2）が生息している。筆者は、2009年4月から明石公園内でフジバカマの観察および保護活動を継続して行っている。ここでは、観察により明らかになった

- (1) 明石公園のフジバカマの生長
- (2) フジバカマの花に集まる昆虫

について報告し、最後に明石公園におけるフジバカマの保護活動の概要を述べる。

### 結果

#### (1) 明石公園のフジバカマの生長

4月上旬、地温の上昇とともに萌芽を始め、4月下旬になると本葉が完全に展開した。梅雨が明けるところには、草丈は平均1.5m前後に達した。8月中旬、茎頂に小さな葉に包まれた蕾が現れた。

花茎が伸長すると次第に総苞片と頭花の違いが明瞭になり、頭花は、5つの小花から構成されることが確認された。やがて花序が展開すると花序の中心部にある蕾が1つずつ開き始めた。蕾は白色であるが、開花すると淡い紫色の筒状花になった。開花2週間後には、花色は淡い紫色から淡い黄色または淡い赤紫色へと変化した。茎頂の花がある程度咲き始めると側芽の蕾が成長を始めた。

\* 甲南大学理工学部生物学科  
2011年3月10日受理

10月中旬、まだ開花している花序はあるが、開花後の花序では少しずつ種子が形成され始めた。11月上旬になると霜が降りるため、開花している筒状花を包む部分の色が紫色をおび、茎の色が赤みをおびるようになった。11月中旬では葉はまだ緑色を残しているが、11月下旬～12月上旬にかけて黄色に変化した。12月中旬になると、葉の色は黄色から茶色に変化し、種子が大量に生産された。種子は冠毛を有しており、風により散布された。

#### (2) フジバカマの花に集まる昆虫

フジバカマの花は虫媒花であり花にも芳香がある。花には、アサギマダラなどの蝶が吸蜜のために集まるということが知られている（鷲谷・矢原 1999）。筆者は、明石公園のフジバカマの花に集まる昆虫を2010年9月上旬～10月下旬に目視調査した。訪花の頻度については5回以上を「多い」、5回を「普通」、5回未満を「少ない」とした。

結果は表1のようになった。カナブンの仲間（図3）、アサギマダラ（図4）、スズメバチの仲間が多く花を訪れていることが明らかになった。最も多く確認したのは、カナブンの仲間であった。カナブンの仲間の体にはフジバカマの花の花粉が多く付着していた。なお、アサギマダラは午前・午後ともに訪花していた。スズ

表1. フジバカマの花に集まる昆虫の種類と花に集まる頻度

昆虫の種類	花に集まる頻度
アサギマダラ	多い
カナブンの仲間	多い
アシナガバチの仲間	少ない
コガタスズメバチの仲間	普通
オオスズメバチの仲間	普通
アブラムシの仲間	多い※
アリの仲間	少ない

※開いた花よりも蕾に多くの個体が付着している。

メバチの仲間は9月上旬ではあまり確認できなかったが、9月中旬にかけて訪花回数が著しく増加していた。

## 保護の経緯

筆者は「フジバカマと明石城」(近藤 2001)を読み、明石公園内にフジバカマを復活させることを決意した。まず、2009年4月下旬に公園内でフジバカマの生息を確認し、その後、公園管理担当者に公園内のフジバカマを保護するように訴えた。話し合いを重ねた結果、フジバカマ繁殖地を筆者と一緒に視察し、草刈り担当ボランティアを対象に繁殖地で説明会を開いてくださった。その結果、ボランティアのフジバカマに関する認識が高まり、手作りの保護柵や看板が設置された。この取り組みにより、これまでより保護機能が強化され、株が成長し無事に開花に至った。公園内にフジバカマが復活した。

## 今後の課題

明石公園のフジバカマは、公園内の草地におけるピオトープの重要な構成要素であると考えられる。また、スズメバチの仲間やアシナガバチの仲間がフジバカマの花に集まるのは、吸蜜のためと考えられる。

フジバカマの生息に適した場所の環境を解明し、フジバカマとその周りに生息する植物種との相互関係を明らかにすることが重要である。フジバカマを含む草本植物の保護・管理方法を確立し、それを伝承することが大きな課題である。

## 謝辞

フジバカマ保護のために、兵庫県立明石公園管理事務所の皆様、ボランティアの皆様、明石公園の自然に親しむ会の皆様、花と緑のまちづくりセンターの皆様をはじめ多くの方々のご協力がありました。また、頌栄短期大学の黒崎史平先生には、兵庫県産のフジバカマの標本を見せていただき、本論文を完成させるにあたり、有益なご助言をいただきました。感謝いたします。

## 引用文献

- 環境省編. 2000. 改訂・日本の絶滅の恐れのある野生生物レッドデータブック 8 植物 I (維管束植物). 財団法人自然環境研究センター.
- 近藤昭一郎. 2001. フジバカマと明石城. 兵庫県生物学会創立 55 周年記念誌 兵庫の自然—環境と生き物の現状—, 209 ~ 211.
- 兵庫県. 2010. 兵庫県版レッドデータブック 2010 (植物・植物群落). (財) ひょうご環境創造協会.
- 鷲谷いづみ・矢原徹一. 1999. 保全生態学入門 遺伝子から景観まで, 12 ~ 15. 文一総合出版.

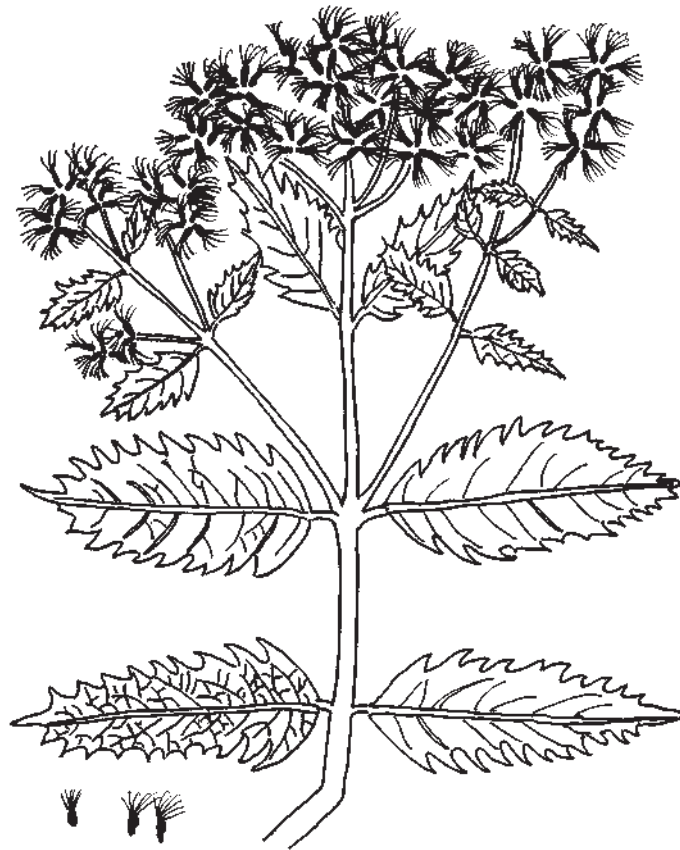


図1：明石公園のフジバカマ。葉が3深裂しないタイプのフジバカマの植物図と種子。

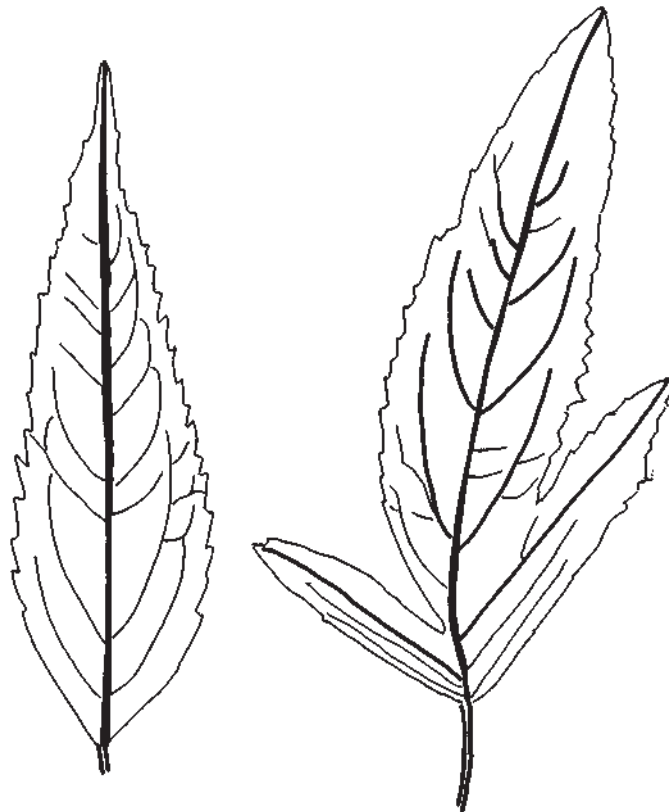


図2：葉が3深裂しないタイプと葉が3深裂するタイプのフジバカマの葉。明石公園のフジバカマには、葉が3深裂しないタイプと葉が3深裂するタイプがある。



図3：フジバカマの花に集まるカナブンの仲間



図4：フジバカマの花に集まるアサギマダラ